

王子五丁目団地 家賃問題住民連絡会が発足

(1976 [昭和三十九] 年 11月)

団地住民のみならず

「収入が小さくても家賃は上がる」「傾斜家賃を凍結できないから」「高家賃への不安の中で、さる十一月三日(文化の日)午後一時すぎから三時向にわたって、団地集会所で「家賃問題勉強会」が開催されました。この勉強会は、当王子五丁目団地の家賃が公団住宅の値にゆさゆしくないほど高額であることを疑問に思い、なんどかできないかと考える住民の方々のよびかけで実現したものです。当日は、祝祭日であったにもかかわらず、四十六人もの住民のみならずが参加されました。この盛況は、家賃問題に対する当団地入居者の関心の高さを一端を示したものとさえいえます。

「つくられた高家賃、すぐにも半額に引き下げ可能」

勉強会では、まず、講師として出席いただいた全国公団住宅自治会協議会事務局長の岡田隆郎さんから、公団家賃、とくに新設団地の家賃の問題について、くわしい解説をお聞きしました。

岡田氏は、家賃問題はこれまで全国の公団住宅住民の最大の課題の一つであったが、特に現在は新設団地のおおむね高家賃と傾斜家賃制度、旧団地の家賃値上げの動きなど、この問題が住民生活を脅かす社会問題となつてきていることを指摘しました。あわせて全国の多数の団地で、自治会を中心に住民が家賃値上げ反対、高家賃引き下げ、傾斜家賃凍結を求めて、政府・公団にたいする署名運動にとりくみ、すでに家賃値上げを六たび阻止している成果も紹介されました。

また岡氏は、公団家賃は原価主義で決められていて、すべての経費を入居者が負担せられていて、家賃の三分の一以上(36.1%)は、公団建設資金として投入される金融機関の融資の利息分(利率は8%平均)であることを明らかにしました。そして、現在の高家賃は「つくられた高家賃」であり、現行法のもとでも家賃は半分に引き下げ可能であると指摘しました。

さらに、傾斜家賃制度や敷金が入居者にいっそう大きな犠牲をしいる仕組みになっていること、旧団地のいっせいで値上げ、「応能家賃」など政府・公団がいま打ち出している新たな制度には重大な問題があることも説明されました。

このあと参加者から、共益費のあり方、株式会社「団地サービス」の性格、駐車場料金が高すぎる問題など、たくさんの方の質問や意見が出されました。みねさんの意見の共通していたのは、「家賃の三割以上が赤字では驚ろいた」「高家賃で生活が圧迫されている」「傾斜家賃をなんとかしたい」ということでした。

積極的なご参加、ご協力をお願いします

ひきつづき、参加者で今後のことを話し合いました。そして、家賃問題は大多数の居住者の関心事であり、当団地においても、全国公団住宅自治会協議会が全国的に展開している署名運動と歩調をそろえて、運動をまさにおこそうというところで意見が一致しました。残念なげに、また自治会の誕生をみていない中で、ヒリあえず「住民連絡会」のような形で進め、多数の居住者各位のご参加、ご協力を仰ごうということをも申しあげ、当日の参加者の中からヒリあえずの「世話人」を十数人委嘱いたしました。二つとして、家賃についての勉強会は内容において収穫を得るとともに、入居後半目まで、住民同士の間をつなかりを広げる端緒ともいえる「連絡会」の発足をもちたわけであります。

このあじ七日(日)夜、ヒリあえずの「世話人」を申しあげたメンバーが会合し、いっせう煮つめた話し合いをおこないました。その結果、つぎのことを申しあげました。

- 一、署名運動にとりくむ会の名称は「家賃問題住民連絡会」とし、各住の積極的なご参加と絶大なご協力を期待しつつ、ねばりつよくとりくんでいく。
- 二、今後進める活動は、①建設大臣および公団総裁にあてた「高家賃の引き下げと傾斜家賃の凍結」などを求める要望書への署名運動、②各戸に「高家賃反対」のワッペンをはる、③活動資金をねん出するための募金を集める(各戸二十円以上を目標)などとする。

なお、署名運動は近日中に開始いたしますが、みなさま方の積極的なご参加とご協力をお願いいたします。この運動を基礎に、住民同士の親睦、相互理解と協力の輪を大きく広げ、生活を守り、住みよい団地をつくりましょう。

世話人

- 鹿田勝一(二一五三三) 谷島俊雄(五一三三)
- 内山秋雄(三一三〇八) 滝沢 勝(六一三三)
- 蓋岡満男(三一七二二) 加賀山時彦(六一四四〇)
- 太田晴蔵(三一九〇三) 藤井曾夫(六一七七)
- 浅野正雄(三一〇〇〇) 井上紘一(六一九五)
- 長田 武(四一三四) 浜田 実(六一三三〇)

(連絡先)TEL(913)9354 浜田

高い家賃の引き下げ、傾斜家賃の凍結、住みよい団地づくりを求めて

団地ぐるみで 署名運動にとりくみましょう